

『一心千里』

走って見れば、 見えてくる

永田 隆一



第89回

と旅立ちました。

筆者 久々に半導体業

昨年の12月14、16日、東京ビッグサイトで開催されたセミコン・ジャパ

ン。展示会として活況でありました。翌週筆者は月曜日から大阪に4泊。23日の祝日に大阪・日本橋を一人歩いていると、大庭敏靖さんからの着信あり。「亀田政明さんが12月19日にな・な・こくなられました」。

筆者の朋輩でありました。1982年から東京エレクトロンの装置エンジニア、92年から2人でミノベラス・システムズへ転じた戦友です。2003年に筆者はコンサルタントとして起業。米エアプロダクツ所属の彼は神楽坂の私のオフィスに入り浸りでした。パソコンと携帯電話で仕事ができる、出社しない無頼。量子ドットペンチャー企業、英ナノコを2人で調査し、彼はナノコ・ジャパンの副社長へ就任しました。

朋輩は、さよならも言わずに57歳で黄泉の国へ

ぱり俺はA1だと思っ
ディープラーニングで最良の選択肢を瞬時に選ぶんだ。

筆者 あー、それぞれ、アメリカの友人のメール。ロボットに自分の仕事のやり方を教えるだろう。そうすると、今の労働者の半分はそのロボットに職を奪われて無職になるって。

2017年の電子デバイス業界 朋輩は何を思う

い英語教師は置き換わるな。それと、暗記に重きを置く教育制度そのものが変化する必要がある。俺たちがシリコンバレー企業で働いていたとき、色んな国の人間がいてさ、発想がとも自由だったじゃないか。価値観さえ柔軟だった。それに引き換え、日本企業は価値観を押し付けるようなステレオタイプがマジョリティー。

亀田 ら、落語みたいじゃねえか。しかし、当たっている。医療だって診断結果さえ整えば、A1が最適な治療方法を教えてくれる。傲慢な勘違いした医者なんかいらないよ。教育はどうだろう。ロボット先生に置き換わるかなあ。

筆者 英会話ができな
の老人がいて、驚いたことに「ロボットと結婚したい」と言い出して、国はその法整備を本気で検討し始めたらしい。老人の顔や声を認識して優しい言葉をかけた時、時に頭張りなさいとしかったり、お菓子の時間もちゃんと教えてくれるロボットらしい。

筆者 ロボットとの結婚か。ありえるな。俺たちが若いころ、今でもか、地方に出張に行ったら、小さな小料理屋、すし屋に入って、カウンター越しに初対面のお店の人と、ありえない楽しい話で盛り上がったじゃないか。

亀田 そうだよな。今の若いのは一人でファミレス行って、ホテルでゲームだって。「知らない人とは話しちゃいけない」。ママの教えを守っているのかなあ。俺たちの師匠 平澤正勝さんが

言った。一酒の席には福がある。そついや、一月に俺を懇別会を開催してくれたな、うれしかったよ。幹事を引き受けてくれた北原淑雄と大庭敏靖に本当に感謝だ。それと、鈴木雄二の山本リンタの曲で「ホステス信じちゃいけないよ」、腹を抱えて大笑いしたぜ。

俺は、卑屈になることを一切せずに、挑戦を大いに楽しんだ。常識なんか木々端微塵、背筋を伸ばして生きてきた。まあ、仲間にも人生を築きむすうに、よましく伝えてくれ。そして、朋輩、おまえも気張ってくれよ。

架空の会話はありますが、きつとこんな会話だと思えます。合掌。

（毎月連載）